

# かるがも



第40号

発行所 千葉県こども病院  
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1  
TEL 043-292-2111  
FAX 043-292-3815  
[http://www. pref. chiba. lg. jp/kodomo](http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo)



病院長 伊達裕昭



## 新年のご挨拶

平成27年新春のご挨拶を申し上げます。

毎年この季節になると、インフルエンザの流行状況が気になります。すでに学級閉鎖を経験したり、せっかくの暮れ、正月の休みを、寝込んで過ごされた方もいらっしゃるかもしれません。インフルエンザの流行については、全国に設けた5,000の定点医療機関で確定診断された患者数が、各機関当たり平均で1.0を超えると、流行期に入ったと判断されます。例年は12月も終わりに近い51週頃がその時期です。しかし、この冬は、47週に当たる昨年(平成26年)の11月17~23日の時点ですでに0.94(全国)、1.63(千葉県)と、例年よりも早く流行が始まりました。この季節は、またノロウイルスによる感染性胃腸炎も増加します。外出後は手洗いとうがいをしっかり励行するなど、日々の体調管理に十分ご配慮ください。



長年こども病院に勤めているせいか、いつも身近に大勢の子ども達がいる、泣き声や喚声が聞こえる環境はごく当たり前のことと思いながら過ごしてきました。しかし気がつけば、自宅で過ごす休日など、周辺は昼間もひっそりとして、子どもの姿を見ないままの一日も少なくありません。そうした日々の光景ばかりでなく、かつては寒い中でも凧揚げやコマ回しに興じたり、外で遊ぶたくさんの子ども達を目にした正月のような特別の日でさえ、今はあまり子どもの姿を見ることなく、静かなものです。テレビやゲーム機などでの一人遊びや、家庭内での遊

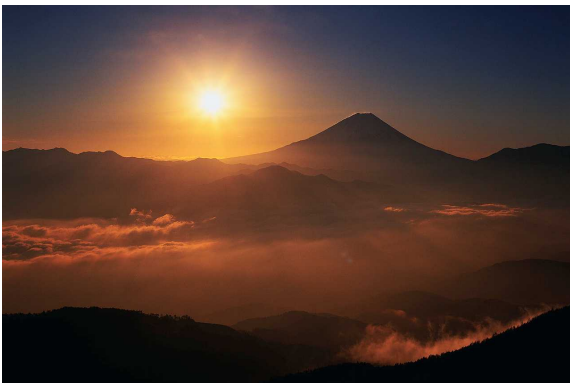
びが主体になったとはいえ、日常の風景から子どもの姿は確実に見えなくなっています。

厚労省の発表では、平成25年の15歳未満の小児人口は1,649万人で、昭和57年の2,725万人をピークに32年連続して減少しました。総人口に占める子どもの割合も、昭和50年の24.3%から昨年の13.0%へと、39年連続して低下しています。さかのぼる昭和30年代には人口の約30%を小児が占めたことを考えると、隔世の感があります。こうした少子化の大きな流れの中では、身の回りに子どもの姿を見かけないの



は当然かも知れません。少子化に歯止めをかけ、現在の日本の人口を維持するためには、一人の女性が一生に産む子どもの平均数(合計特殊出生率)を、人口置換水準とされる2.07まで引き上げることが不可欠と言われます。平成25年は1.43と微増していましたが、前途はまだまだ多難です。

こども病院ばかりでなく、小児医療に携わる者のすべてが、子ども達の心身の健全な育成に日々努めています。しかし、子どもの疾病に立ち向かい、健康の維持に手を貸すだけでは、社会の疾病ともいべき少子化の問題は解決できません。このままのペースで少子化が続けば、地方から都市部への人口移動も加わって、「2040年の時点で、実に約半数、896の自治体が日本から消滅する」と日本創成会議は警告します(増田寛也編著『地方消滅』中公新書)。子どもは、国の未来を映す鏡です。国の未来を危うくする恐れがある少子化問題への処方箋について、あらゆる世代がいまほど真剣に知恵を絞らなければならない時はないように思います。



年頭に当たり、今年が平穏な一年になるよう祈念するとともに、子ども達の明るい未来を描くことができる、良い年になることを願っています。

平成27年1月